

ねりまユニオン

編集発行：練馬ユニオン編集委員会

連絡先：練馬区 練馬1-16-16-101

サポートねりま内

TEL 03-3994-2088

E-mail : support@nerimaunion.orgHP : www.nerimaunion.or/

2022 練馬全労協・練馬地域ユニオン 合同団結新年旗開き開催

1月11日（火）19時からココネリ研修室2で、練馬全労協・練馬地域ユニオン合同新春団結旗開きが開催されました。司会の真下事務局長の開会挨拶ではじまり、春闘情勢報告をお願いしていた東京全労協大森議長が急遽体調不良で欠席となりました。

主催者挨拶が五十嵐議長代行よりあり、春闘を闘ってきたが90年代半ばから賃金がまったくあがらなくなった。非正規も増えて、賃金、手当等で差別を受けている実態があり、同一労働同一賃金を実現しなければならない。東京都では、退職年齢が60歳から65歳に段階的に引き上げられ、賃金は引き下げられました。年金制度と連動している為、辞められず働かなければならないと挨拶がありました。

北部労協の小泉議長からは、今年の春闘がはじまっているが、経営側に岸田政権からも経団連に業績によってベースアップをとの話がされている。安倍政権から続き「成長なくして分配なし」と言っている。コロナ禍の中での、経済政策の失敗で貧困格差が生まれた。私たちは全労協の旗のもとで、練馬全労協は運動を地域から作ってきたことに自信をもってもらいたい。北部労協も組織を再構築し練馬全労協と共に闘いたいと挨拶がありました。

JAL争議団からは宝地戸さん、加藤さんからそれぞれ挨拶がありました。宝地戸さんからは2018年5月に会社側から解決したい



と話が出されたが解決していない。私たちは職場復帰と解決金を目指して闘っている。特別協議を19回行っているが、一向に話が進まない。「定年退職」として組合に所属していないパイロット3人がJAL被解雇者労働組合（JHU）を新しく立ち上げ、会社に団体交渉を申し入れたが拒否された。国交省にも昨年9月に団交を申し入れたが拒否された。そこで都労委に団交拒否の不当労働行為救済の申し立てを行い都労委での闘いが始まっている。JAL被解雇者労働組合には、その後12月に客室乗務員19名が加入をした。都労委闘争を成功させないと前進しないと力強く話されました。加藤さんからはJALはいかにも私たちをなめていると、怒りをこめて述べました。

JAL争議の全面解決をめざす2月16日東京集会への呼びかけと決意を述べられました。最後にユナイテッド争議団から裁判報告集会があり参加できないので書面にて、お祝いのメッセージが司会者から披露されました。また練馬地域ユニオン奥山委員長の力強い団結ガンバローで旗開きを閉会しました。

退職届の無効および退職の 撤回を求める闘いの経過

1. 退職届の無効の通知を無視した会社

昨年3月練馬ユニオンに退職届の撤回について相談が寄せられました。

社長とのやり取りの中で退職届を書いてしまった。

直ちに「退職願いの無効および退職の撤回を求める通知書」を送ったが、社長から「退職届の有効性に」については議論するつもりは全くないとの返事が届き、撤回を求める通知に対して話し合いは一度も行われず、退職手続きが一方的に進められてしまった。

当該の希望は退職届を撤回し職場に戻り病気休暇に入って、傷病手当の申請を望んでいましたが、会社は無効通知を無視し話し合いにも応じませんでした。

2. ユニオンに加入し退職届無効、 退職撤回の団体交渉を始める

第1回の団体交渉では退職届について、会社の主張は退職届は有効であり撤回は認められないと対立しました。

ユニオンの主張は研修会のミスから社長の無視対応が始まり、部下の仕事のミスも当該に責任を押し付けて降格された。その後職場での監視状態と無視される扱いを受けうつ病が発症していた。

退職届はうつ状態で幹部会議の席で行きがり上、書いてしまい、当該が「自由意思で書いたのか」疑わしい、「心裡留保」「錯誤」であり問題であると反論し対立し膠着状態になった。

第2回の団体交渉に於いても退職届撤回については対立のままであったが、ユニオンよりこの案件について、会社は解決方法をお持ちですかの質問に金銭解決も考えられると回答があり、双方解決方法について持ち帰り検討するとなり、以後は事務折衝にて進めようとなり、事務折衝にはいりました。

3. 事務折衝にて和解成立

その後3回の事務折衝を行い、当該の会社への長年の貢献、社長に代わって不満のある部下を説得し円満解決した事など会社への貢献度を考慮する事、退職届の無効についても「心裡留保」での無効判例を参考にし、本人の「自由意思」で退職届を書いたのかを代理人弁護士と議論しました。その後具体的解決条件について当該組合員、ユニオン要求と会社条件との隔たりを埋めるべく事務折衝を重ねました。ユニオンも当該の希望に沿うように当該と幾度となく議論を尽くし、当該も納得できる金銭和解の合意となりました。

団体交渉もコロナ禍の中で日程調整の滞りがあり1年ほどかかりましたが、2回の団体交渉と3回の事務折衝で、和解成立に至りました。

4. 当該組合員の気持ち

幹部会議の前までは、今後「真面目にやっています」と、決意表明と謝罪をすれば納まるとの思いでおり退職する意思はありませんでしたが、社長とのやり取りで行きがかり上退職届を書いてしまった。

退職届の撤回を求める通知書でも記したようにコロナ感染症が騒がれ就職が困難な時期で世間の誰もがわかるように、辞めたら生活がどうなるかわかっているのに本当に自分

の意思では退職する気持ちはありませんでした。

☆解決後の当該組合員よりの御礼

長い間本当にお世話になりました。

ユニオン様がいなければ、ただただ、泣いて終わるところ、皆様のおかげで家族仲良く頑張っていくという希望を持たせて頂きました。

本当に本当にありがとうございました。どうかユニオンの皆様にもこの感謝の意を気持ちをお伝えください。皆様のご健康と御多幸を祈願させていただきます。ありがとうございました。

過食を防ぐには



たっぷり運動のすすめ

年末年始はついつい食べ過ぎてしまい、体重が気になっている方も多いのではないのでしょうか。腹八分目に医者いらずという、ことわざがあるように食べ過ぎは健康を害するリスクがあります。

今回は過食してしまう原因とその対処法について取り上げていきます。過食の原因には様々なものがありますが、一つに満腹中枢のコントロールが関係しています。通常、食事を摂ることで脳の視床下部にある満腹中枢が働き始め、食欲を徐々に抑える働きが生じます。しかし、食べるのが速い人は食欲を抑えるよりも前に、食べ過ぎてしまうのです。

そのため、一口につき20回以上噛むようにして、食事の時間を長く取る他、野菜やスープなどを最初に摂り、満腹中枢に刺激を与えることが過食を防ぐことに繋がります。

加えて、消化吸収に時間のかかるタンパク質をしっかり摂る事で、腹持ちを良くする事ができる他、「コレシストキニン」という消化管ホルモンの分泌により、食行動を制御して食べ過ぎを抑える事ができます。

また、平均の睡眠時間が5時間以下と短い場合では「グレリン」という食欲を刺激するホルモンが多く分泌される事がわかっており、短い睡眠では過食を引き起こしやすく、結果肥満のリスクが高まってしまふと考えられています。

十分な睡眠と、バランスの摂れた良い食事内容、朝昼晩と規則正しい摂取タイミング、腹八分目等々、これらを少し意識することで、食べ過ぎをコントロールすることができ、健康を害するリスクを減らすことができます。無理の無い健康管理に役立てていきましょう。

特定非営利活動法人 ヘルスプランニング

練馬版

落書

おとしがき



『すなふきん』
作：練馬ユニオン 齊藤明男

川柳自選拾遺集(18)

- ◇ 復帰とは何ぞと問わん五十年
- ◇ 水際で大穴開ける地位協定
- ◇ クラスタ―呼び込み恥じぬ軍事基地

- ◇ 温暖化廻ってきたか猛吹雪
- ◇ マグマ吠え海揺るがせる火山島

- ◇ 対岸の火事と侮り火を浴びる
- ◇ 後手踏んで前倒しという能天気

- ◇ お互いを労わる友の賀状読む
- ◇ この目だけ誓いを立てる初日の出

【川柳デモ】

この国を私を変えよ年新た（乱鬼龍氏）



《シルバ―歌壇》

○ 大阿久芳胤・作 ◇ 齊藤明男・作

- 共感と連帯満ちる目の光強く放ちて暖かくあり
- 炊き出しに右に倣って同調し横に並んで愛を育む
- ◇ 昇る陽に九条翳し胸を張る武器なき平和夢想なるかや
- ◇ 流行のあと追いかける接種券「前倒し」とは何ぞと問うても

2021年5月21日

東京都労働委員会（都労委）に「不当労働行為救済命令（団体交渉拒否）」を申し立て。

（毎日新聞 5月13日東京版）



JHUホームページより

JAL 争議の 全面解決を めざす 東京集会

とき 2022年2月16日(水)
18時30分開会

ところ 文京区民センター3A
(東京都文京区本郷4-15-14)

内容 呼びかけ人挨拶
集会趣旨説明
講演 講師 指宿昭一弁護士
原告決意表明
連帯挨拶

主催 JAL争議の全面解決をめざす東京集会実行委員会

呼びかけ人
主催 練馬（JAL闘争支援東京中部共闘会議）、小林 浩治（JAL闘争支援東京中部共闘会議）
東京 武蔵（JAL闘争支援） 船橋 等（JAL闘争支援） 寶塚 忠（JAL闘争支援）
東京 武蔵（JAL闘争支援） 船橋 等（JAL闘争支援） 寶塚 忠（JAL闘争支援）
東京 武蔵（JAL闘争支援） 船橋 等（JAL闘争支援） 寶塚 忠（JAL闘争支援）